

ごあいさつ

皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに平成24年度中間期（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）の営業の概要と決算の状況につきましてご報告申し上げます。

当中間会計期間におけるわが国の経済は、年初は復興需要やエコカー補助金などによって持ち直していましたが、その後、海外経済の減速や政策効果の息切れもあり、景気の足取りは重くなっていきました。秋口からは、日中関係の悪化などの景気下押し要因も加わって、景気は下方への局面変化を示す状況となりました。

このような経済状況のもと当行は、平成24年4月から平成27年3月までの3年間の計画期間とする新たな経営強化計画「プランフェニックスⅢ」を策定し、「地域から頼られる銀行」を目指して、地域密着型金融の推進によりお客様支援の実践に全役職員が全力で取り組んでおります。

中小企業等のお客様への支援の取組みを徹底し、ビジネスマッチングなどの販路拡大支援や成長分野事業支援、海外進出支援等、お客様の本業支援を積極的に展開するとともに、円滑な資金供給や経営改善支援等、コンサルティング機能を発揮し、地域とお客様の発展に努めてまいりました。

その結果、当行の平成24年度中間期決算は、預貸金が順調に増加したことで、本業の収益を示すコア業務純益が52億円を計上することができ、また、お客様のニーズの把握による適切な資金応需に努め、中小企業向け貸出を中心とした貸出金残高が増加したこと等により、資金利益が順調に推移し、経常利益は52億円、中間純利益は40億円を計上することができました。このように、平成24年度中間期決算のコア業務純益及び中間純利益は、過去最高益であった前年同期に並ぶ水準となりました。

従来から当行は、「雨でも傘をさし続ける銀行」として、「靴底を減らす活動」の徹底により、お客様の抱える課題の解決を一緒に図り、お客様の役に立つ銀行として取り組んできましたが、お客様支援活動を積極的に展開したことで、平成24年度中間期の預金残高は、前年同期比621億円増加し、貸出金残高は、

同145億円増加いたしました。特に貸出先数は、毎期順調に増加しており、平成24年度中間期の6ヶ月間では342先の大幅な増加となり、平成21年10月からの前経営強化計画の取組み以降の3年間で1,319先の増加が図れております。このような預貸金残高や貸出先数の増加は、当行役職員が一丸となって取り組んできた靴底を減らす活動でお客様回りの徹底をしたことやお客様支援活動を評価していただいたものと考えております。

景気の先行きについては、海外経済の持ち直しの動きや経済政策効果から今後緩やかな回復が期待されますが、景気の下振れリスクが存在していることから、引き続き海外経済の情勢や国内景気の動向を注視する必要があり、不透明感が払拭できない状況にあります。

このような状況の中でも当行は、地域に根を張った銀行として、地域に根付くお客様の発展のためにお客様の本業を徹底して支援することで、地域金融機関として地域の発展、活性化に貢献するとともに、地域から頼られる銀行を目指してまいりますので、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成25年1月

株式会社東和銀行
代表取締役頭取

吉永國光